第五條　一仕入鑑札所持致サヽル者ヘ無印紙製造烟草ヲ買受候歟又ハ右所持致サヽル者ヘ無印紙製造烟草ヲ賣渡ス者ハ各脫稅高ノ二十倍宛科料可申付事

第六條　一仕入鑑札借受候者並貸渡候者ハ其鑑札取上ケ枚數ニ應シ鑑札料ノ十倍宛科料可申付事

第七條　一烟草印紙ヲ用ユヘキ製造烟草ニ印紙ヲ貼用セス自用ノ人ヘ賣渡ス者ハ脫稅高ノ貳拾倍科料可申付事

第八條　一烟草印紙ヲ不足ニ貼用セシ者ハ稅減高ノ拾倍科料可申付事

第九條　一官許印紙賣捌所ノ外ニ於テ烟草印紙賣捌致ス者ハ其品取上ケ既ニ賣捌タル印紙代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上タ印紙代ノ五拾倍科料可申付事

第拾條　一一旦相用ヒタル烟草印紙ヲ剝取リ再用スル者或ハ之ヲ賣買スル者ハ五拾圓以下ノ科料可申付事

第拾壹條　一烟草印紙ヲ贋造スル者又ハ贋造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ九拾圓以下ノ科料可申付事

第拾貳條　一前數條ニ掲クル所ノ犯則人ヲ見聞ケ訴出ル者アルトキハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其科料金ノ半高相與候事

△明治九年四月廿六日第五拾九號布告ヲ以テ第拾三條ヲ追加セラル即チ左ノ如シ

第拾三條　出賣鑑札ノ貸借ハ不相成借受幷貸渡シタル者ハ其鑑札取上枚數ニ應鑑札料十倍ノ科料申付ヘシ右鑑札ヲ所持セス又ハ出賣ヲ爲ス者ハ鑑札料二十倍ノ科料可申付事

△明治十五年十二月二十七日第六拾三號布告ヲ以テ左ノ如ク改定ス

明治八年(十月)第百五拾號布告烟草稅則別紙ノ通改定シ來ル十六年七月一日ヨリ施行ス

但明治十年(二月)第拾四號布告第一項ハ廢止

烟草稅則

第壹章　烟草營業

第壹條　烟草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

烟草製造人

烟草仲買人

烟草小賣人

第貳條　刻烟草又ハ卷烟草等ヲ製造スル者ヲ烟草製造人トス但賃銀ヲ受ケテ他ノ製造人ノ烟草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラス

第三條　未製造ノ烟草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者ヘ賣渡シ及製造煙草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者ヘ賣渡ス者ヲ烟草仲買人トス

第四條　製造烟草ヲ自用者ヘ賣捌ク者ヲ烟草小賣人トス

第二章　營業鑑札

第五條　烟草營業者ハ管轄廳ヘ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但烟草製造仲買及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受ク可シ

第六條　烟草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ管轄廳ニ願出仕入又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶ス可シ

第七條　烟草營業者ハ鑑札ヲ受クルトキ左ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

烟草營業鑑札料　一枚ニ付金貳拾錢

烟草仕入鑑札料　一枚ニ付金拾錢

烟草出賣鑑札料　一枚ニ付金拾錢

第八條　鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ之ヲ管轄廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フ可シ但前條ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

第九條　營業人廢業スルトキハ管轄廳ヘ届出鑑札ヲ還納ス可シ

第拾條　鑑札ハ貸借賣買及ヒ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三章　營業稅

第拾壹條　烟草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ム可シ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ム可シ

烟草製造營業稅	一ケ年	金拾五圓	
烟草仲買營業稅	一ケ年	金拾五圓	
煙草小賣營業稅	一ケ年	金五圓	

第拾貳條　煙草營業稅ハ年々兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限管轄廳ニ納ム可シ但新ニ開

業スル者ハ營業鑑札ヲ受ル節其半年分ノ營業稅ヲ納ム〳〵シ

第四章　印稅

第十三條　烟草製造人刻烟草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙包又ハ箱詰ニ裝置シ相當ノ印紙ヲ用フ可シ

量目	印稅	卸賣定價百匁ニ付貳拾五錢以上五拾錢未滿ノ分	卸賣定價百匁ニ付五拾錢以上ノ分
五匁	貳厘	三厘	四厘
拾匁	四厘	六厘	八厘
拾五匁	六厘	九厘	壹錢貳厘
貳拾匁	八厘	壹錢八厘	壹錢六厘
三拾匁	壹錢貳厘	三錢	二錢四厘
五拾匁	貳錢	四錢	三錢六厘

百匁　四錢　六錢　八錢

第拾四條　刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ採紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印ス可シ

第拾五條　刻煙草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ貳厘ノ帶印紙ヲ以テ結束ス可シ

第拾六條　刻烟草ハ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス

第拾七條　外國ヘ輸出スル煙草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戻稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人ヘ下付ス可シ

第拾八條　煙草印紙ノ種類價格左ノ如シ

印紙
帶印紙　黑色　一枚　貳厘

同	淡赭色	同　三厘
同	黃色	同　四厘
同	赭色	同　六厘
同	萌黃色	同　八厘
同	淡青色	同　九厘
同	茶褐色	同　一錢二厘
同	淡紅色	同　一錢六厘
同	桔梗色	同　一錢八厘
同	橙黃色	同　二錢
同	老綠色	同　二錢四厘
同	濃黃色	同　三錢
同	黃綠色	同　四錢
同	紫色	同　六錢

同　赤色　同　八錢

第拾九條　烟草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第貳拾條　印紙貼附ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章　雜則

第貳拾壹條　刻烟草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記スヘシ

第貳拾貳條　烟草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第貳拾三條　烟草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

烟草製造人
烟草製造帳
烟草仲買人
煙草買入帳
煙草小賣人
煙草買入帳

第二十四條　煙草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス每ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二十五條　印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十六條　煙草營業者ハ煙草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十七條　煙草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ煙草買入高賣捌高製造高幷印紙買入高及六月三十日ノ煙草幷印紙ノ現在高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ッ可シ

第二十八條　印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄

ノ印紙賣捌高並買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十九條　煙草營業者ハ營業ノ標札ヲ戸外ニ掲出ス可シ

但書式ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三十條　印紙買入鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條　未製造ノ煙草ハ煙草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス但貸與讓與ノ名義ヲ以テスルモ亦同シ

第六章　檢査

第三十二條　煙草營業者ノ帳簿及其所持ノ煙草ハ主任官隨時之ヲ檢査ス可シ

第三十三條　檢査官吏ハ檢査ノ時官ノ印章ヲ携帶シ營業者ノ求メニ應シテ之ヲ示ス可シ

第七章　罰則

第三十四條　營業鑑札ヲ受ケスシテ煙艸營業ヲ爲ス者ハ營業稅逋脫ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ煙艸ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第三十五條　煙艸營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙艸ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ代價ヲ追徵ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十六條　帳簿ノ登記ヲ詐テ脫稅ヲ謀リ若クハ脫稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ届書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　煙艸營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙艸ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓ケタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十八條　第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ

違犯シタル者及第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル煙艸ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第三十九條　管轄廳ノ許可ヲ得スシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　未製造ノ煙艸ヲ煙艸營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　第十三條ノ煙草裝置區分ニ違フ者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第四十二條　鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　煙艸自用者ニシテ未製造ノ煙艸又ハ無印紙ノ刻煙艸ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條　第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及二十九條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十五條　第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條　煙艸營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

第四十七章　酒造規則　明治十三年九月二十七日第四十號布告

○明治十三年九月二十七日第四十號布告

第一章　免許鑑札　稅率

第一條　凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管轄廳ニ願出酒造場一ケ所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條　酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類　釀造酒　清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ

二類　蒸溜酒　「焼酎」「酒精再溜酒」「精」其他蒸溜シタルモノヲ云フ

三類　再製酒　酤酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ左ノ如ク改正追加ス　但シ第三條改正ハ明治十六年十月一日ヨリ施行ス

第三條　免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及ヒ造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許稅　金三拾圓

酒造場一ケ所ニ付

酒類造石稅

一類壹石ニ付　金四圓

二類壹石ニ付　金五圓

三類壹石ニ付　金六圓

第四條　免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ左ノ如ク追加ス

第四條二項三項

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス

清酒　百石
濁酒　十石
一類清酒濁酒二類三類　五石

ヲ除ク

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條　酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第六條　免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條　免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ

其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章　納稅　造石檢查

第九條　造石稅ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

▲明治十五年三月二十三日第十七號布告ヲ以テ第一期第二期ヲ左ノ如ク改正ス

第一期　四月三十日限
十月一日ヨリ二月中檢查濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第二期　七月三十一日限
三月一日ヨリ六月中檢查濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第三期　九月三十日限
七月一日ヨリ皆造檢查濟石數ニ係ル稅額並前納額ノ殘數

第十條　造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出テ檢查ヲ受クヘシ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ左ノ如ク追加ス

第十條二項

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スルモノハ其節管廳ヘ申出檢査ヲ受ケ現石數ニ付納稅スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二個所以上ニ免許ノ者其一個所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移スキハ管廳ヘ屆出且成製ノ上檢査ヲ受クヘシ

第十一條　前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條　自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ檢查ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第十三條　檢查ホ濟ノ酒類ヘ檢查濟ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條　檢查未濟ノ酒類ヲ屆出ノ上他ノ酒類ニ變製（第一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類）スル時ハ造石稅ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條　檢查濟ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ檢查濟ノ石數ニ係ル造石稅ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就キテ造石稅ヲ納ムヘシ

但シ變製ノ節ハ必ス管廳ヘ屆出テ檢查ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ檢查ヲ受クヘシ

第十六條　皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳ヘ申出檢查ヲ受クヘシ

第十七條　前條檢查ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

第十八條　濁酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ヲ納ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

第十九條　酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ檢查ヲ受クヘシ

第二十條　酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳ヘ申出其容量ノ檢查ヲ受クヘシ

但賣買等ハ其時々管廳ヘ屆出ヘシ

第三章　禁令　雜令

第二十一條　酢及ヒ酒もと販賣スルヲ許サス

▲明治十五年三月二十三日第十七號ヲ以テ左ノ通リ但書ヲ追加セヲル

但事故アリテもとノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限リ賣渡スハ此限ニ在ラス

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス

第二十二條　他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非サル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒釀場ヲ貸スヲ許サス

第二十三條　檢查未濟ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消糜スルヲ許サス

檢查既濟ノ酒類ヘ檢查未濟ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條　免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條　造酒(搾リ蒸溜)器ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但シ過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ屆出再封ヲ請フヘシ

第二十六條　免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳ヘ一該期造酒見込ノ種目石數並ニ其造リ方法其屆出ヘシ

但種目變換並ニ見込石數ノ增減等ハ其時々屆出可シ

第二十七條　酒造ニ屬スル倉庫納屋並ニ諸器械其總テ管廳ヘ屆出ヘシ

但增減ハ其時々屆出ヘシ

第二十八條　一期造酒屆出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ヲ免許鑑札ノ乘號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ揭出スヘシ

第四章　罰令

第二十九條　免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械其沒收シ免許稅額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類幷ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追

徵スヘシ

第三十條　免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ第三十一條第三十二條第三十四條左ノ如ク改正ス

第三十一條　酒類石數ノ檢查ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限リニ非ス

第三十二條　酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但（明治十五年三月二十三日第十七號布告ヲ以テ但書ヲ削

除ス故ニ畧ス）

第三十三條　檢査求濟ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條　第十四條又ハ第二十條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ第三十五條以下左ノ如ク追加ス

第三十五條　第六條第二十五條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ヲ犯シテ檢査ヲ受ケサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第三十六條　第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收スヘシ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總テ石數ヲ沒收ス

第三十七條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條　酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則

第一條　自家用料ノ酒類（飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ）ヲ製造スル者ハ管廳ヘ届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條　免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期

トス

第三條　自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高一石（二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス）ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條　自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條　自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第八條　第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第九條　此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

第四十八章　醸麹営業規則

○明治十三年九月廿七日第四十一號布告

第一章　免許鑑札　営業税

第一條　凡ソ醸麺（醸酒類ノモト）ヲ製造シテ営業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一ケ所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期営業税トシテ左ノ通リ納ムヘシ

醸麹営業税　金五十圓

第二條　営業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條　一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ営業税ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條　免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條　販賣ノ節ハ其石數幷ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ第五條第二項左ノ如ク追加ス

醸麹及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第六條　免許鑑札賣買讓與スル時ハ双方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條　免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條　免許ヲ受ケタル者ハ醸麹賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戸外ニ掲出スヘシ

第二章　禁令　罰令

第九條　免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條　免許鑑札ヲ受ケス醬麹ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條　前明條ノ外販賣ノ節石數幷ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ一圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ第十二條以下左ノ如ク追加ス

第十二條　醬麹營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類醬麹ヲ除クノ外ヲ製造スルヲ許サス

第十三條　第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收スル之ヲ賣捌タル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條　醬麹營業者ハ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

第四十九章　石油取締規則

○明治十四年八月十三日第十號布告

第一條（明治十四年九月二十四日第五十號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス）石油ヲ分テ二トス華氏驗温器百十五度（英語「ホーン、テスト」ニシテ即チ引火度ノ謂ナリ以上）ノ熱度ニ至ヲサレハ引火セサルモノヲ第一種トシ其百十五度ニ達セサルモ引火スルモノヲ第二種トス

第二條　點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫師化學家藥商工職家ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用ユルヲ許サス

第三條　石油營業者ヲ分テ壙業者精製問屋及ヒ小賣商ノ四類トス都テ管轄廳（東京府下ハ警視廳）ノ許可ヲ受クヘシ但シ二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條　壙業者精製者問屋多量ノ石油ヲ貯藏スル場所及ヒ倉庫精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳（東京府下ハ警視廳）ニ於テ檢査ノ上認可スルモノトス

第五條　第二種ノ石油ニ問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス但シ販賣ノ時限ハ日出ヨリ日沒迄ノ間トス

第六條　醫師化學家藥商工職家第二種ノ石油ヲ購買スルトキハ其數量及ヒ需用ノ趣意ヲ詳記シタル証票ヲ問屋ニ交付スヘシ問屋ハ其數量年月日及ヒ買人ノ住所氏名ヲ別帳ニ記載シ其証票ヲ貯ヘ置クヘシ但シ幼年者及ヒ警者聾者其他不能力ノ者ヘ販賣スヘカラス

第七條　警察官吏ハ石油精製所若クハ問屋ニ就テ石油ヲ檢査スヘシ其檢査ヲ經タルモノニアラサレハ問屋又ハ小賣商ヨリ需

用者ニ販賣スルヲ得ス

第八條　檢査濟ノ石油ヲ家屋内ヘ貯藏スルヲ得ルハ問屋ハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油三石以内トシ需用者ハ第一種ノ石油二石以内第二種ノ石油五斗以内トス容器ハ都テ金屬製ヲ用フヘシ

第九條　石油ヲ運搬スルトキハ其石油ヲ及ヒ其種類ヲ表記スヘシ但シ其積卸ニ必用ナル時間ノ外波戸場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條　此規則ニ背ク者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

▲明治十五年八月十六日第四十四號布告

明治十四年(九月)第五拾號布告石油取締規則施行日ノ儀更ニ明治十六年七月一日ト改正ス

第五十章　車稅規則

○明治八年二月廿日第二十七號布告

明治六年(一月)第三拾壹號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅則昨七年十二月三十一日限リ相廢シ尤モ遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年(二月)第二十一號布告船稅規則ニ照準收稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通リ相定メ同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

車稅規則

第一則

一馬車貳匹立以上　壹ケ年稅金三圓
一同　壹匹立　壹ケ年稅金貳圓
一荷積馬車　壹ケ年稅金壹圓
一人力車貳人乘　壹ケ年稅金貳圓

一同　一人乘　壹ヶ年稅金壹圓
一牛車　壹ヶ年稅金壹圓
一荷積大七大八車　壹ヶ年稅金壹圓
一荷積中小車但大六以下　壹ヶ年稅金五十錢

第二則

一新調ノ車ハ總テ其都度區戶長ヘ届出檢印可申受事
但シ從來所持ノ分ニテ檢印無之車荷積牛車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

一右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ半年分宛區戶長ヘ取集メ其管轄廳ヘ可相納事
但前年年分ハ翌年七月三十一日限リ後半年分ハ翌年一月三十一日限リ其管轄廳ヘ可相納事

第五則

一荷積車等ノ內耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則

一諸車類無屆ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事

▲明治八年三月二十四日大藏省乙第四十號達
本年第二十七號公布車稅規則中第五則荷積車ノ內耕作一途ニ相用候車類ハ車稅免除ノ檢印（免稅）ヲ爲取締一車每ニ燒記候上免稅致シ候儀ト可相心得旨相達候事

▲明治十三年六月十一日大藏省乙第二拾三號達

船(商船艀漁船)等車ヘ修繕ヲ加ヘ爲メニ税額ニ增減ヲ生シタル
ヰハ新調ト認メ更ニ該期ヨリ相當ノ税金徵收候儀ト可相心得此
旨相達候事

▲明治十三年十月十五日大藏省乙第三拾五號達

自轉車ノ儀各地其取扱方區々相成居候處右ハ素ヨリ人力車部中
ノモノニ付キ同樣課税可致儀ニ候條爲心得此旨相達候事

第五十一章　銃砲取締規則

○明治五年正月廿九日第二拾八號布告

明治八年六月廿八日第百拾壹號達ヲ以テ銃砲彈藥取締ノ儀一切
內務省ヘ管理セシメラレ候ニ付從來陸軍省等ヘ申出ルヿハ都テ
內務省ヘ出サシメ且本則中抵觸ノ箇條ハ都テ廢セラル

第一則

一大小銃並ニ彈藥類商賈ノ儀ハ府縣其定員商賈ノ外取扱致間敷
右定員ノ商賈ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事
但東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賈ノ定員

一府下　各五員
一縣下　各三員
一鎭臺本分營下　各一員

但府縣廳下開港等ニアルハ別ニ設ケス

一開港場　各五員

右免許差遣候商賈ノ姓名住所等京兵庫武庫司ヘ届ケヘキ事

第二則

一免許商人タリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ紡ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照ラシ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳ヘ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司ヘ可願出事

第三則

一免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥ハ多少ヲ論セス買取賣渡其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ者ハ免手形相添毎月其管廳ヘ差出ス可シ其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ管轄鎮臺ヘ差送可申事

但諸鎮臺ヨリ毎歳正月七月兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京武庫司ヘ差送リ可申尤東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ取締可致事

第四則

一彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミヲ計リ勝手ノ場所ヘ差置間敷兼テ其地方管廳ヘ願出差圖ヲ受相圖可申事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司ヘ願出ヘキ事

第五則

一華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲幷彈藥類ヒストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出東京大坂ハ武庫司ヘ持出別紙銃砲改刻印式ノ通番號官印ヲ受可申他人ヘ讓與ヘ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ

但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通リタルヘシ

銃砲改刻印ノ式

干支何番　武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ管轄鎭臺ヘ届出鎭臺ヨリ東京武庫司ヘ差送可申事

免許ノ銃猟

一和銃四文目八分玉以下

一各國諸猟銃

但西洋猟銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレ𪜈霰彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス

右猟用銃所持ノ者ハ其銃名口數等巨細附記シ其管廳ヘ届出其廳ヨリ東京武庫司ヘ差出可申東京大坂ハ所持ノ者ヨリ直ニ武庫司ヘ届出ヘシ萬一軍用猟用銃ノ差別難相辨者官ヘ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ証印ヲ据ヘ可相渡事

（明治六年第貳拾五號布告）

第六則

（鳥獸猟規則ヲ以テ廢ス）

第七則

一銃砲彈藥下々ニ於テ猟リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其管廳ヘ相願管轄鎭臺ヘ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎭臺ヨリ武庫司ヘ差送リ檢査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲並彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳ヘ爲差出其廳ヨリ東京武庫司ヘ可差出事

但東京大坂ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ武庫司ヘ可届出事

右之通ニ候事

▲明治五年九月廿三日第二百八十二號布告ヲ以テ左之通リ罰例ヲ定ム

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥類ヲ窃ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五十錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事

▲明治七年十二月八日第百三十二號布告ヲ以テ左ノ通リ罰例ヲ增補ス

一免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事

但書同前

▲明治八年六月廿八日第百十一號達

今般銃砲彈藥取締ノ儀内務省ヘ管理被仰付候ニ付テハ追テ相達候儀モ可有之候得共差向キ從前規則ノ通リ相心得取締可致尤モ右規則中是マテ陸軍省及ヒ各鎮臺等ヘ申出候分ハ總テ内務省ヘ可申出其他管理替ニ付抵觸ノ箇條ハ屢シ候儀ト可心得此旨相達候事

▲明治十三年三月廿五日第八號布告

明治五年(正月)第二十八號布告鐵砲取締規則第二則中左ノ一項增加候條此旨布告候事

一免許商人ハ陸海軍準士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入レントスルトキハ買入願書ニ其賣主ノ連書ヲ爲サシムヘキ事

▲明治十一年五月廿四日第拾一號布告

銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室内射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥雷管ニ限リ賣買手續左ノ通リ相定候條此旨布告候事

銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室内射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥ヲ買ハント欲スル時ハ其免狀若シクハ免許証ヲ以テ彈藥賣買免許商人ニ示シ以テ其免許人タルコヲ証スヘシ

彈藥賣買免許商人ハ右ノ免狀若シクハ免許證ヲ認メ正確ナリトスル時ハ左ノ程限ニ照ラシ之ヲ賣渡シ其姓名及ヒ數量等ヲ詳記シ其管轄廳（東京ハ警視本署）ヘ届出ツヘシ

西洋形獵銃用	彈藥藥散バトロンノ類	貳千發
同上用	雷管	四千粒
火繩銃用	火藥	壹貫目
威シ銃用	雷管	壹万粒
室内銃用		

右一次賣渡シ最多ノ程限トス若シ一次此程限外ノ彈藥雷管ヲ買ハント欲スル時ハ銃砲取締規則第二則ニ從フヘシ

度量衡改定規則

第五十二章　度量衡改定規則

○明治九年二月十九日第拾七號布告

第一條　三器改定ニ付キ各地方ニ三器製作所並ニ賣捌所ヲ設ケ・製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ枡座秤座ハ同日ヨリ廢止候事

第二條　各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月二十五日マテニ右改所ヘ差出シ檢查ヲ請ク可シ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルコヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入リ用器ヲ視察スヘキ事

但シ改所ニ於テ檢查ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ

第三條　製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但シ尺ハ尺棹等一時便用ノ爲メ目盛致シ枡ハ半鳥半等ヲ量

ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條　尺度秤量ノ目ヲ盛桝直シノ緣鉄弦鉄ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所ヘ差出スヘク秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候儀不相成事

第五條　舊新器共撿印アルヲ賣捌度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事

但シ秤ノ錘皿又ハ桝ノ緣鉄弦鉄等ヲ取離シ古鉄トシテ賣買スルハ苦シカラス

第六條　第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照ラシテ處斷スヘキ事

第五十三章　牛馬賣買規則

○明治五年十一月四日第三百三十號布告

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管內共區々ノ取計無之樣可致候事

別紙

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御詮議之次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ所置可致事

壬申十月　　大藏省

規則

第一條　各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬一鼻

綱ニ付免許鑑札一枚相渡可申事
但シ一鼻綱ハ牛馬其七匹ニ限リ鑑札一枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七匹以内二枚ヲ所持スル者ハ十四匹ニ限ル可シ其餘准之可申事

第二條（明治七年四月二十日第四十五號布告ヲ以テ左ノ通リ改正ス）
一免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

第三條　免許鑑札萬一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハヽ事實取調鑑札相渡可申事

第四條　免許鑑札一枚ニ付一ケ年稅金二圓上納可致事
▲明治八年七月七日第百拾五號布告ヲ以テ但書左ノ通リ改正ス

但シ右稅金ハ毎年二月八月兩度ニ半額宛各管廳ヘ取立租稅完ク上納可致尤モ新規免許ノ者ハ其都度半額宛ニ取立上納可致事

第五條　免許鑑札燒印并ニ押切判ハ雛形ノ通リ其管轄廳ニテ製造致シ各稼人共ヘ相渡可申事
但シ鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面詳細取調右鑑札印鑑相添ヘ當省ヘ可差出事

第六條　右樣取調相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上免許稅十倍ノ科料可申付事
但シ密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主ヘ取上ケ牛馬拂代金ノ二褒美トシテ被下候事

第七條　取上牛馬拂代并ニ科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上

納可致事

第八條　此規則施行候ニ付請入費ハ一ヶ年試驗ノ上可申立事

▲明治七年十二月三日第百三拾一號布告ヲ以テ左ノ通リ第九條ヲ追加ス

第九條　一免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事

但免許鑑札借受ケ賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照ラシ處分可致候間貸渡候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事

右ノ通規則相定候事

壬申十月

大藏省

第五十四章　鳥獸獵規則

○明治十年一月廿三日第十一號布告

第一條　小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノ爲メニスルヲ遊獵トス

第二條　銃獵免狀ナキ者ハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸ヲ除クカ爲メニ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ

第三條　銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齡ヲ詳記シ東京庶下ニ於テハ警視廳（舊ト內務省ノ處十四年九月十三日第四十三號布告ヲ以テ警視廳ニ改テ農商務省ト爲シ更ニ同年十一月四日第六十一號布告ヲ以テ警視廳ト記ス）其他ハ該地方管廳ニ改ム故ニ今此ニハ改正公布ニ從ヒ直ニ警視廳ヘ（其第六條モ亦同シ）

第四條　免狀ハ其効一期ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若クハ授受スルヲ禁ス

第五條　免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ

一職獵　金一圓

一遊獵　金拾圓

第六條　水火盜難其他ノ事故ニ係リ免狀ヲ毀失スル時ハ速カニ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ニ屆出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受ル者ハ更ニ稅金ヲ納ムルニ及ハスト雖モ手數料トシテ金二拾五錢ヲ納ムヘシ

第七條　左ニ記列シタル者ニハ免狀付與セサルヘシ

一十六歲未滿ノ者

一白痴癲癇等ノ者

一故ナク弓筒銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

第八條　左ニ記列シタル場所ニ於テハ獵銃ヲ爲スヲ禁ス

一都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

一銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離

一禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃二挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

一作物植付ケアル田畑內或ハ社寺人家等ノ構內

但該主又ハ看守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第九條　獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ

軍銃ヲ用フルヲ禁ス

㊟明治十年十二月十七日第八十五號布告ヲ以テ左ノ如ク但書ヲ加フ

但開拓使管內ニ限リ和銃玉目拾匁以下ヲ用フルヲ得ヘシ

第拾條　銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス是時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景況ニ依リ已ムヲ得ス此時限ヲ伸縮スルトキハ其理由ヲ農商務省ヘ届出ヘシ

第十一條　日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十二條　凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ携帶スヘシ出獵中警察官吏區戸長村役人等免狀ヲ檢スルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十三條　地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスルトキハ第八條所示ノ如キ制札ヲ立テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲ爲スヘシ

第十四條　凡ソ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スヘシ

第十五條　銃獵ヲ生業トスル者ニアラスシテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵スル者ハ五拾圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期内銃獵ヲ禁スヘシ

第十六條　總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ證跡ヲ取リ訴出ルトキハ犯人罰金ノ半ヲ賞トシテ與フヘシ

第十七條　第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナカラス貳拾圓ヨリ多サラサル罰金ヲ科スヘシ

▲明治十年十二月十七日第八十五號布告ヲ以テ第十八條ヲ追加ス

第十八條　一開拓使管内ニ入リ鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規則ニ遵フヘシ

第五十五章　改正証券印税規則

○明治十七年五月一日太政官第十一號布告

明治七年（七月）第八十一號布告證券印税規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年（七月）第百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

右奉　勅旨布告候事

證券印税規則

第一條　凡ソ財産授受及ヒ契約ノ證明ニ用ユル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其税率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラス下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ税印ノ抑捺ヲ請フコトヲ得

一當座預リ金引出小切手	印税	五厘
一委任狀	同	五厘
一金高記載ナキ約定證文	同	壹錢
一遺金物證文同	同	壹錢
一跡式讓證文	同	壹錢
一讓與證文	同	壹錢
一期限ヲ定メサル預リ金證文	同	壹錢
一耕地小作證文	同	壹錢
一雇人請合狀	同	壹錢
一金高記載ナキ諸物品預リ證文	同	壹錢
一金高記載ナキ諸物品借用證文	同	壹錢
一地所家屋預リ證文	同	壹錢

一諸物品切手　同壹錢
一借地借家證文　同壹錢
一賣買仕切書　同壹錢
一保險證文　同壹錢
一諸會社株券　同壹錢
一送金手形　同壹錢
一金錢諸物品通帳（一年以內一冊ニ付）　同壹錢
一金錢諸物品判取帳（同）　同貳拾錢
一結社約定書　同壹錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印稅ヲ貼用スヘシ

一營業ニ關スル送狀　印稅一錢
一營業ニ關スル請取書　同一錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以內一冊ニ付一錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ証書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

一金錢借用證文
一地所家屋賣買証文
一金高記載アル諸物品預リ証文
一金高記載アル諸物品借用証文

一諸物品賣買証文
一金錢定期預リ証文
一金高記載アル諸般ノ契約証書
金高一圓以上二十圓未滿　印稅一錢
金高二十圓以上五十圓未滿　同二錢
金高五十圓以上百圓未滿　同四錢
金高百圓以上百五十圓未滿　同六錢
金高百五十圓以上二百圓未滿　同八錢
金高二百圓以上三百圓未滿　同十一錢
金高三百圓以上四百圓未滿　同十四錢
金高四百圓以上六百圓未滿　同二十錢
金高六百圓以上八百圓未滿　同二十六錢
金高八百圓以上千百圓未滿　同三十二錢

金高千百圓以上千四百圓未滿　同三十八錢
金高千四百圓以上千七百圓未滿　同四十四錢
金高千七百圓以上二千圓未滿　同五十錢
金高二千圓以上二千五百圓未滿　同六十錢
金高二千五百圓以上三千圓未滿　同七十錢
金高三千圓以上三千五百圓未滿　同八十錢
金高三千五百圓以上四千圓未滿　同九十錢
金高四千圓以上　同一圓

右諸証書ヲ通帳ト爲スト雖モ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ム
ル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿　印稅四錢
金高百圓以上總テ諸証書稅率ニ據ルヘシ
一金錢當座預リ証文

一質物（預り書小札）
金高一圓以上貳拾圓未滿　印税壹錢
金高貳拾圓以上　同貳錢

右諸証書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ム
ル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿　印税貳錢
金高百圓以上　同四錢

一爲替手形　一荷爲替手形　一約束手形

金高五拾圓未滿　印税壹錢
金高五拾圓以上百圓未滿　同貳錢
金高百圓以上貳百圓未滿　同四錢
金高貳百圓以上五百圓未滿　同八錢
金高五百圓以上千圓未滿　同拾五錢

金高千圓以上貳千圓未滿　同貳拾五錢
金高二千圓以上　同五拾錢

第三條　前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同ウスルモノハ其名稱ニ拘ハラス稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條　印紙ヲ貼用スヘキ証書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條　印紙ハ証書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ証書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ証書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ証書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條　印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條　印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送リ狀ハ主任官之ヲ檢查スルコトアルヘシ

第九條　左ニ掲クル所ノ証書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿

一官吏准官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用ユル證書

一國庫金取扱所及ヒ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當証書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預証書帳簿

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書

一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納入ヘ差出ス請取証書

第十條　第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及使用期限紙數ヲ記載スヘシ但シ物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條　証書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條　印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿サタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢查ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條　前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條　第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及增加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條　證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ニ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條　取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條　證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト效用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ增減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受ケル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條　印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之レヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用イタルモノハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取リタルモノ亦同シ

第二十條　第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取リタルモノ亦同シ

第二十一條　此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條　第八條ノ證書帳簿ノ檢查ヲ拒ミタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條　第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用イス

○明治十七年五月一日太政官第十二號布達今般第十一號布告ヲ以テ證券印稅規則改正候ニ付テハ印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價左ノ通リ相定ム但印紙ハ當分ノ內新舊取交貼用スルコトヲ得

印紙

赭色	定價	五厘
黃綠色	同	二錢
橙黃色	同	一錢
萌黃色	同	五錢

桔梗色	同	拾錢
淡黑色	同	五拾錢

手形用紙

老綠色	定價	一錢
淡黑色	同	四錢
淡赭色	同	拾五錢
淡青色	同	五拾錢
肖色	同	二拾五錢
赤色	同	壹圓

桔梗色	同	二錢
橙黃色	同	八錢
淡紅色	同	二拾五錢
淡黃色	同	一圓

ヲ布達候事

○正誤　前號太政官第十一號布告甲第六行目「還金」ハ「遺金」ノ誤ナリ

○又　前號太政官第十二號布達ニ付官報ニ左ノ通リ正誤セラレタレハ玆ニ其全文ヲ掲ク

本年（本月）第十二號布達手形用紙ノ中「淡黃色　同　一圓」ノ六

字ハ術

明治十七年五月一日

内閣書記官

第五十六章　印紙賣捌規程

○明治十七年四月二十二日太政官第九號布達

印紙類賣捌規程左ノ通相定メ明治十七年六月一日ヨリ施行ス

但從前ノ印紙賣捌手續ハ總テ同日ヨリ廢止ス

右布達候事

印紙類賣捌規程

第一條　印紙類ノ賣捌ハ陸軍恩給令海軍恩給令巡査看守給助例ニ於テ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者及ヒ陸軍恩給令第廿一條第一項海軍恩給令第廿二條第一項巡査看守給助例第二條第三項ニ揭クル寡婦（孤兒）ニシテ扶助料ヲ受クル者ニ限リ之ヲ許可スヘシ

第二條　府知事縣令ハ適宜每郡區内ニ印紙類賣捌人員ヲ定メ之ヲ大藏省ニ届出ツヘシ

第三條　第一條ノ資格ヲ有スル出願者第二條ノ定員ニ滿タサル時ハ一般陸軍恩給令海軍恩給令巡査看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

但本條ヲ以テスルモ猶定員ニ充タサル地方ニ於テハ二ケ年以內ノ期限ヲ定メ一般人民ニ許可スルコトヲ得

第四條　印紙類ノ賣捌ヲ爲サントスル者ハ現居住地方ノ郡區役所ニ願出管轄廳ヨリ賣捌所看板ヲ受ケ之ヲ店頭ニ揭クヘシ

第五條　印紙類賣捌所ハ一人一ケ所ニ限リ許可スルモノトス

第六條　此規程ニ依リ賣捌クヘキ印紙類左ノ如シ

一證券(印界)紙　一訴訟印紙　一賣藥印紙

第七條　印紙類ハ必ス定價ヲ以テ賣捌クヘシ賣捌ノ外讓與貸與スルコトヲ許サス

第八條　印紙類ハ其代金ヲ上納セシメタル後下渡スヘシ

但第一條ノ資格ヲ有スル者及ヒ第三條ノ受恩興者ニハ其代金五百圓マテ公債証書ヲ抵當トナシ六ケ月以內之カ延納ヲ許スコトアルヘシ

第九條　印紙賣捌手數料ハ第一條ノ資格ヲ有スル者ニハ賣捌代金百分ノ十其他ノ者ニハ百分ノ七ヲ給スヘシ

第十條　賣捌人ニシテ左ノ事項ニ該ル者ハ賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌所看板ヲ返納スヘシ此場合ニ於テハ返納印紙代金ニ對スル當初下渡ノ手數料ヲ除去シ其殘金額ヲ返付スヘシ

一恩給ヲ受クルノ權消絕シタル時

一恩給停止ノ時

一廢業シタル時

一此規程ニ背キ營業禁止又ハ停止セラレタル時

第十一條　印紙類火災盜難等ノ爲メニ亡失スルモ其代金ノ返付

ヲ請求スルコトヲ得ス但避クヘカラサル事變ニ遭遇シタル者ハ事狀ヲ具シテ處分ヲ乞フヘシ

第十二條　印紙類ノ損傷又ハ汚染シタル時ハ其印紙ニ代金百分ノ五ノ金額ヲ添ヘ印紙交換ヲ請求スルコトヲ得

第十三條　此規程ニ違背シタル者ハ情狀ニ依リ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトアルヘシ

第一節　仝取扱手續

○明治十七年五月九日大藏省第二十九號達　府縣沖繩縣ヲ除ク

本年四月第九號布達印紙類賣捌規程取扱手續左ノ通心得ヘシ

第一項　印紙類ハ府縣長官ノ名印ヲ以テ租稅局長ニ宛テ之ヲ請求スヘシ

第二項　印紙類賣捌看板ニハ住所姓名番號ヲ記シ從前ノ書式ニ從ヒ調製ノ上之ヲ下付スヘシ二種類以上賣捌ノ者ハ各種類ヲ一枚ニ併記スルモ妨ケナシ

第三項　印紙賣捌人改姓名轉居ノ節ハ其旨郡區役所ニ申出テサセ看板ニ記載シアル住所姓名ノ書換ヲ請ハシムヘシ但燒失等ノ節ハ其事由ヲ詳記シ更ニ看板ノ下渡ヲ請ハシムヘシ

第四項　印紙賣捌人休業スルトキハ規程第十條ニ準據シ賣捌看板ヲ返納セシムヘシ

第五項　府知事縣令ハ規程第二條ニ據リ印紙賣捌人員ヲ定ムルニハ從來賣捌方ノ模樣等ニ據リ需用者ニ差支ナキ樣之ヲ定ムヘシ

第六項　印紙賣捌人員增減ハ一ヶ年ヲ二期ニ分ヶ別紙雛形ニ倣ヒ增減表ヲ調製シ一、七、月二十日限リ差立租稅局ヘ送附スヘシ

第七項　規程第八條ノ但書ニ據リ延納ヲ許可スルトキハ其抵當

ト爲スヘキ公債證書ノ價額ハ明治十三年乙第一號當省達ニ據テ之ヲ定ムヘシ但延納印紙ノ代金及上納期限ヲ記シ其時々租稅局出張所ヘ通牒スヘシ

第八項　印紙類代金延納ヲ許可シタルトキハ別紙上納受書雛形ニ倣ヒ証書ヲ差出サシムヘシ

第九項　印紙賣捌手數料ハ卽納延納トモ印紙代金上納ノ節之ヲ下渡スヘシ

第十項　規程第十條ニ據リ返納セシ印紙中代金既納ノモノアルトキハ左ノ區別ニ從ヒ其代金ヲ返付スヘシ但返納セシ印紙代金ニ對スル手數料ハ其節之ヲ返納セシムヘシ

一代金納付ト印紙返納ト其時日同年度ニ係ルモノハ所在租稅局出張所ヘ照會シ該年度出入金ノ內ヨリ返付シ而シテ稅表皆濟帳トモ其員數ヲ除却スヘシ

一代金納付ハ印紙返納ト其時日年度ヲ異ニスルトキハ別途還付ノ儀當省ヘ稟申シ稅表皆濟帳トモ除去ニ及ハス其返納印紙ハ受拂計算表ニ一畫ヲ設ケテ元請ニ立ツヘシ

第十一項　規程第十二條ノ損傷又ハ汚染印紙交換ノ際上納セシ代金百分ノ五ノ金額及第十項但書ニ據リ返納セル手數料ハ雜收入ニ編入納付スヘシ

第十二項　印紙賣捌人ハ帳簿ヲ製シ各種類ヲ區別シ印紙賣捌高ヲ記載シ置カシムヘシ但煙草印紙ハ別ニ制規アルヲ以テ此限ニアラス

右相達候事

用紙美濃

明治何年分印紙賣捌人員增減表　何府縣

郡區名	受恩典者		非恩典者	
	卽納ノ者	延納ノ者		
何區	何人	何人	何	人
何郡				
計				

右之通ニ候也

年　月　日

長官名印

租稅局長宛

上納受書雛形

印紙賣捌代金上納御受書

一印紙代金何圓

內譯　印紙ノ種類及枚數ヲ掲記スヘシ

右印紙代金ノ儀ハ來ル　月　日無相違上納可仕候右代金ニ對シ別紙簿書ノ公債證書ヲ抵當トシテ差出申候若シ上納期日ニ不納候トキハ該公債證書御賣拂ノ上印紙代金御差引御徵收相成哪異議無之且印紙類ハ保護可致ハ勿論萬一水火盜難等有之候トモ印紙代金ハ急度上納可致候此段御受申上候也

年　月　日

區町
郡村　番地
賣捌人

他人ノ記名ノ公債証書ヲ借受抵當トスルトキハ其記名者ノ連署ヲ要スヘシ戸長同斷

府知事縣令殿

公債証書雛書

一何種類公債証書

此金高何圓

內譯

何印何號何番何枚此金高何圓

右之通相違無之候也

某　印

右戸長

某　印

年　月　日

他人ノ記名公債証書ヲ借受抵當トスルトキハ其記名者ノ連署ヲ要スヘシ戸長同斷

賣捌人

某　印

右戸長

某　印

○明治十七年五月九日大藏省第三十號達　府縣沖繩縣ヲ除ク

今般第九號ヲ以テ印紙賣捌規程布達相成候ニ付本年六月一日限リ從前許可シタル賣捌人（恩典者及ヒ非恩典者）其ニ於テ賣捌殘餘ノ印紙ヲ返納センコトヲ願フ片ハ之ヲ返納セシメ代金納濟ノ分ハ印紙賣捌規程取扱手續第十項ニ據リ其代金ヲ還付シ該印紙類代金ニ對スル手數料ヲ返納セシムヘシ

右相達候事

印紙賣捌規程

第五十七章　府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

明治十三年四月八日第十五號布告

第一章　總則

第一條　府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ分ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第二條　府縣會ハ通常會ト雖モ會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス

第三條　通常會臨時會ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ論セス會議ヲ開クヲ得ス

第四條　臨時會ハ其特ニ會議スルヲ得ス

第五條　府縣會ノ決議ハ府知事縣令其議決ヲ認可スヘキ者トス若シ府知事縣令認可スヘカラスト思料スルトキハ內務卿ノ指揮ヲ請フヘシ

▲明治十四年二月十四日第四號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス

前項ノ場合ニ於テ府知事縣令ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ內務卿ノ指揮ヲ請フヲ前項ニ仝シ

第六條　府縣會ハ每年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ府知事縣令ニ說明ヲ求ムルヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直ニ內務大藏兩卿ニ上伸スルヲ得

▲明治十五年十二月二十八日第六十八號布告ヲ以テ本條ニ左ノ項追加

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ說明ヲ求ムルトキハ府知事縣令若クハ其代理人之ヲ說明スヘシ

第七條（明治十五年二月十四日第十號布告ヲ以テ左ノ通リ改正

ス）通常會期中議員ノ內二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣內ノ利害ニ關スル事件ニ付キ建議ヲ爲サントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得ヲ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシテ議長ノ名ヲ以テ直ナニ內務卿ニ建議シ又ハ府知事縣令ニ建議スルヲ得

但シ臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限リ建議スルヲ得

第八條　府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣內ニ施行スヘキ事件ニ付キ會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之レヲ議ス

第九條　府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルヲ得

府縣會ハ議員ノ內招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

▲明治十年二月十四日第四號布告ヲ以左ノ一項ヲ追加ス

府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ双方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事縣令ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルヲ得

第二章　撰舉

第十條　府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰フ

第十一條　議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告シ府知事縣令ハ之ヲ內務卿ニ報告スヘシ

▲明治十五年二月十四日第十號布告ヲ以テ左ノ通リ追加ス

每郡區議員定數ノ外補缺員トシテ十人以下ヲ增選スルヲ得

第十二條　議長副議長及ヒ議員ニ俸給ナシ但シ會期中滯在日當及ヒ往復

旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條　府縣會ノ議員タルヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其府縣內ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣內ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但シ左ノ各款ニ觸ル、者ハ議員タルヲ得ス

第一款　風癲白痴ノ者

第二款（明治十五年二月十四日第十號布告ヲ以テ左ノ通リ改正ス）舊法ニ依リ一年以上懲役及ヒ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者

新法ニ依リ公權ヲ剝奪及ヒ停止セラレタル者又ハ一年以上重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者

第三款　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款（明治十五年二月十四日第十號布告ヲ以テ左ノ通リ改正ス）官吏敎導職及ヒ陸軍海軍諸卒現役ノ者

第五款　府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條　議員ヲ撰擧スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區內ニ本籍ヲ定メ其府縣內ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ル、但（明治十五年二月十四日第十號布告ヲ以テ左ノ通リ改正ス）但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者及ヒ陸海軍々人現役ノ者ハ撰擧人タルヲ得ス

第十五條　議員ヲ撰擧セントスルトキハ府知事縣令ヨリ某月間ニ撰擧會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ撰擧ノ投票ヲ爲ス

ヘキ日ヲ定メ少クトモ十五日前ニ之ヲ郡區內ニ公告スヘシ

第十六條　撰擧ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ撰擧會中ノ取締ヲ爲スヘシ但シ便宜ニ因リ郡區廳外ニ撰擧會ヲ開クヿヲ得

第十七條　撰擧人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被撰擧人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰人トシ同數ナラハ年長ヲ取リ同年ナラハ鬮ヲ以テ之ヲ定ム

但シ投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ケナシ

第十八條　投票終ルノ後郡區長ハ撰擧人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ査シ又被撰擧人名簿ニ就テ當撰人ノ當否ヲ査ス若シ法ニ於テ不適當ナル者アルカ或ハ當撰人自ラ其撰ヲ辭スルトキハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

第十九條　當撰人ノ當否ヲ査定スルノ後郡區長ハ其當撰人ヲ郡區廳ニ呼出シ當撰狀ヲ渡シ當撰人ハ請書ヲ出スヘシ

但シ當撰人各請書ヲ出シタル後郡區長ハ其姓名等ヲ郡區內ニ公告スヘシ

第二十條　一人ニシテ數郡區ノ撰ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條　議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス

第一回二年期ノ改選ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條　議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルヿヲ得

第二十四條（明治十五年二月十四日第十號布告ヲ以テ本條中轉住ノ字ヲ轉籍ノ字ニ改メ而シテ但書ヲ追加ス乃チ左ノ如シ）

議員中第十三條ニ掲ク ル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍スルカ其他總テ欠員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰舉ス

但シ補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取リ尚缺員アルトキハ本條末文ノ手續ニ據ル

第三章　議則

第二十五條　議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十六條　會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條　府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得

但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條　會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ發意ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條　議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付テ褒貶毀譽ニ渉ルコトヲ得ス

第三十條　議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其强暴ニ渉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章　開閉

▲明治十五年十二月二十八日第六十八號布告ヲ以テ第三十一條第三十二條左ノ如ク改正ス

第三十一條　府縣會ハ每年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十日以內トス但郡區會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以內延期スルコトヲ得

第三十二條　通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事縣參事會ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ内務卿ニ報告スヘシ

第三十三條　會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコアリト認ムルトキハ府知事縣參事會ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

▲明治十五年十二月廿八日第六十八號布告ヲ以テ本條ヘ左ノ二項ヲ追加ス

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期内ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事縣參事會ハ更ニ其議定ヲ要セス内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得」

「第一項ノ場合ニ於テ内務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事縣參事會ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得」

議員招集ニ應セサル者半數ニ過キ議會ヲ開クヲ得サルトキハ府知事縣參事會ハ其事由ヲ内務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第三十四條（明治十四年二月二十四日第四號布告ヲ以テ本條中「開會ヲ命シ又ハ」ノ七字ヲ削除シ而シテ第二項ヲ追加ス乃チ左ノ如シ

會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコアリト認ムルトキハ内務卿ハ何レノトキヲ問ハス議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得」

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ

第三十五條　内務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改撰スヘシ

▲明治十三年十一月五日第四十九號布告

本年（本月）第四十八號ノ布告アルニ依リ本年（四月）第十五號布告府縣會規則ヘ左ノ通追加ス此旨布告候事

第五章　常置委員

第三十六條　府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ

▲明治十五年二月十四日第十號布告ヲ以テ本條ヘ左ノ通リ追加ス

常置委員定數ノ外數名ヲ增撰シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ區郡各部ニ之ヲ撰任スヘシ

▲明治十五年十二月二十八日第六十八號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス

第三十七條　常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備ノ支出ニ付府知事縣令ヨリ諮問アルトキ其意見ヲ述フ

常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得

第三十八條　常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告シ且ツ通常會ト臨時會トヲ論セス府知事縣令ヨリ諮問スヘキ議案ヲ前以テ諮取リ會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條　常置委員會議所ハ府縣廳內ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條　（明治十五年二月十四日第十號布告ヲ以テ本條中常置

委員ノ下「諮問」ノ二字ヲ增加ス

常置委員ノ諮問會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス

第四十一條（明治十五年二月十四日第十號布告ヲ以テ左ノ通リ改正ス）

諮問會ハ府知事縣令ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ撰擧スヘシ

第四十二條　常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條　常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條　府知事縣令ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辨明ヲ爲サシムルヲ得

第四十五條　常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條（明治十五年二月十四日第十號布告ヲ以テ本條中二ケ年トシノ下「議員ノ改撰毎ニ之ヲ改撰ス但」ノ十三字ヲ增加ス）

常置委員ノ任期ハ二ケ年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ改撰ス但期限ニ至リ再撰スルヲ得

第四十七條（明治十五年二月十四日第十號布告ヲ以テ議長ヲ府知事縣令ノ五字ニ改ム）

常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事縣令之レヲ撰任ス

第四十八條　常置委員ハ三十圓以上八十圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條　常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支辨ス

▲明治十三年九月廿八日太政官達

府縣會規則ノ儀ニ付左ノ二件爲心得相達候事

一議員撰舉ノ際郡區相當人員ノ外辭撰若補欠ノ爲メ別ニ數名（五名以下）ヲ副撰セシメ置クモ妨ケナシ

一議長副議長共欠席スルトキハ議員中ニ於テ臨時假議長ヲ公撰シ其日ノ會議ヲ開クモ妨ケナシ

▲明治十五年十二月二十八日第七十號布告

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス

其集會スルモノ何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス

▲明治十三年十二月二日內務省乙第四十八號達

本年第四十九號ヲ以テ府縣會規則追加公布相成候ニ付左ノ條件爲心得相達候事

一（此一項ハ同年乙第五十三號達ヲ以テ取消シ更ニ左ノ通リ改正ス）

一常置委員ハ來十四年通常會開會前ニ於テ撰任スヘシ

一十三年度中常置委員ノ月手當及往復旅費ハ委員ヲ撰舉セシムル臨時會ニ於テ議定セシムヘシ

一郡區經濟ヲ異ニスル府縣ニ在テハ定員內ニ於テ共郡區撰出ノ人員ヲ定ムルコトヲ得

一常置委員補欠ノ爲メ相當ノ豫備員ヲ撰ヒ置クモ妨ケナシ

一第四十一條ニ依リ議長ハ府知事縣令之ヲ勸ムト雖モ本務ノ都合ニ依リ書記官之レカ代理ヲ爲スヲ得

一第四十六條ノ通委員ノ任期ハ二ケ年タルヘシト雖モ若シ議員ノ任期ヲ終ヘタルモノハ其本分ノ任期ト共ニ委員ノ任期モ終リタルモノトス

一常置委員會議ノ細則ハ該會ニ於テ議決シ府知事縣令認可ノ上施行スヘキモノトス

▲明治十四年二月十四日第六號布告

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事

▲明治十四年二月十四日第八號布告

東京府京都府大坂府神奈川縣區郡部會規則左ノ通相定メ明治十三年(五月)第二十六號及ヒ第二十七號布告廢止候條此旨布告候事

第一條　三府及ヒ神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分チ區部會郡部會トナシ區部郡部ニ分別シタル事件ヲ議定セシム

第二條　區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定スヘキ事件トハ府縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第三條　府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ增加ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ其定限ヲ殊ニスルヿヲ得

第四條　府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第五條　府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付テハ區部郡部常置委員會同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ

但區部郡部常置委員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第六條（明治十五年二月十四日第十二號布告ヲ以テ削除ス故ニ

署ス）

第七條　（同上故ニ略ス）

第八條　明治十三年度以前ニ係ル地方稅ノ中區郡連帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區郡ニ分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ

▲明治十五年二月十四日第十二號布告ヲ以テ左ノ通リ第九條ヲ追加ス

第九條　區部ニ係ル戶數割ハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ家屋稅ト爲スコトヲ得

第五十八章　府縣農商工諮問會規則

○明治十四年五月二十三日第二十九號布告

各地農商工ノ實況ヲ視察シテ勸業ノ事務ヲ著實ナラシメ倍々其改進ヲ圖ランカ爲メ今般農商工諮問會規則左ノ通制定候條此旨布告候事

第一條　各府縣ニ農商工諮問會ヲ開ク

第二條　農商工諮問會ハ凡ソ農商工ニ關スル事件就中海陸ノ運漕道路ノ開鑿港灣ノ修築川渠並ニ用惡水路ノ疏通禽獸ノ驅除法獸者類傳染病ノ豫防法山林ノ保蓄栽培伐採各地方ニ適應スヘキ動植物及ヒ器具ノ試驗勸業列品場其他農商工模範建造物設置ノ方法市場ノ興廢並ニ共規則案ニ就キ農商務卿若クハ府知事縣令ヨリ諮問スル事件ヲ審議シテ其意見ヲ具申シ併セテ農商工ノ盛衰其他ノ統計ヲ調査スルノ任アルモノトス

第三條　會員ハ府知事縣令其府縣内ニ滿三年以上住居（本籍寄留ヲ問ハス）シ二十五歳以上ノ男子ニシテ名望アル農商工五名以上十五名以下ヲ撰ンテ之レニ任ス其任期ハ三ケ年トス但シ滿期再撰スルヲ得

第四條　議長ハ府知事縣令若クハ其代理人之ヲ勤ムヘシ

第五條　書記ハ府知事縣令其屬官中ニ於テ之ヲ命ス

第六條　會議ハ毎年少クモ一回開クヘキモノトス若シ會員ノ三分一以上ノ請求アルトキハ府知事縣令ニ於テ臨時之ヲ許可スルヲ得

第七條　農商務省ノ官吏農商工上等會員及農商工諮問會所在府縣ノ官吏ハ會議ニ列シテ意見ヲ述フルヲ得但決議ノ數ニ入ラス

第八條　會議ハ多數ニ決ス可否半ハスルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第九條　會員ハ旅費日當ヲ給ス其額ハ該府縣會議員ト同一タルヘシ

第十條　會費中會員ノ旅費日當地方税中勸業費ヲ以テ支辨シ其他ノ雜費ハ府縣廳費ヲ以テ支辨スヘシ

第二章　區及ヒ聯合區町村農商工業議會

第十一條　各府縣ノ區又ハ聯合區町村ニ於テ農業議會若クハ商業議會若クハ工業議會ヲ設立シ或ハ農商工業ノ爲メ一ノ議會ヲ設立スルヲ得

第十二條　各議會ハ其農商工業ノ利害ヲ議究シ及ヒ府知事縣令若クハ農商務卿ヨリ諮詢スル事件ヲ審議シ其意見ヲ開申スヘキモノトス

第十三條　各議會ハ其農商工業ノ利害ニ關スル事件ニ付キ府知

事縣令及ヒ農商務卿ニ建議スルヲ得

第十四條　議會ヲ設立セントスルトキハ其區會又ハ聯合區會村會ノ認可ヲ得府知事縣令ヲ經由シテ其願書ヲ農商務卿ニ捧ク其許可ヲ請フヘシ

第十五條　農工業者議會ノ議員ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其議會區域內ニ住居（本籍寄留ヲ問ハス）スル製產者及ヒ該地ノ製產物ヲ賣買スル商人中ヨリ公選シ商業議會ノ會員ハ同上ノ要件ニ適應シタル商人中ヨリ公選シテ府知事縣令ノ認可ヲ請クヘキモノトス但シ府縣會規則第十三條ノ各款ニ觸ルヽ者ハ議員タルヲ得ス

第十六條　議員ヲ撰舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男戶主ニシテ其議會區域內ニ住居（本籍寄留ヲ問ハス）シタル農商工業者ニ限ル但シ府縣會規則第十三條ノ各款ニ觸ルヽ者ハ撰舉

八タルコトヲ得ス

第十七條　農工業各議會ノ議員ハ二十五人以下トシ商業議會ノ議員ハ五十人以下トシ議員中投標ヲ以テ議長壹人副議長壹人ヲ選舉スヘシ議員ノ任期ハ三ケ年トス但シ滿期再選スルヲ得

第十八條　議會ノ費用ハ議員撰舉人ノ協議ヲ以テ支辨スヘシ

第十九條　各議會ノ細則ハ其議會ニ於テ之ヲ創定シ府知事縣令ヲ經由シテ農商務卿ノ認可ヲ請クヘシ

第五十九章　地方税規則

○明治十三年四月八日第十六號布告

明治十一年(七月)第十九號布告地方税規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條　地方税ハ左ノ目ニ從ヒ徴收ス

一限租三分一以内(本ト五分一以内トアリシヲ明治十三年第四十八號布告ヲ以テ三分一以内ニ改ム)

一營業税並雜種税

一戸數割

第二條　營業税雜種税ノ種類及ヒ制限ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　費目左ノ如シ(明治十三年十一月五日第四十八號布告ヲ以テ本條中增加廢止及ヒ明治十四年二月十四日第五號布告ヲ以テ追加改正スル乃チ左ノ如シ)

一警察費

一土木費　府縣ニ屬スル河港道路堤防橋梁建築修繕等ノ費用及ヒ區町村ニ屬スル全上ノ補助費

一府縣會議費

一衛生及ヒ病院費

一教育費　府縣ニ屬スル教育ノ費用及區町村立學校ノ補助費

一郡區廳舍建築修繕費

一郡區吏員給料旅費及ヒ廳中諸費

一救育費

一堵役場及難破船諸費

一管內限リ諸達書及ヒ揭示諸費

一勸業費

一戸長以下給料及ヒ戸長職務取扱諸費

一地方税取扱費爲替方給料爲換手數料現在遞送等ノ費用

以上費目五ニ流用スルコヲ許サス

▲明治十五年十二月二十八日第六十九號布達ヲ以テ左ノ如ク改正ス

一豫備費　豫算外ニ生シタル事件ノ費途及豫算ノ臨時不足ニ充ツル者

一府縣廳舍建築修繕費

一府縣監獄費

一府縣監獄建築修繕費

各町村限及ヒ區限ノ入費ハ其區内人民ノ協議ニ任セ地方税ヲ以テ支辨スルノ限ニアラス

第四條　其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一週年度トナシ府知事縣令ハ其年二月迄ニ地方税ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方税徴收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ其年五月ヲ以内務卿及ヒ大藏卿ニ報告スヘシ

▲明治十五年十二月二十八日第六十九號布告ヲ以テ第四條第五條左ノ如ク追加改正ス

地方税ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期ノ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取リ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコヲ得

第五條　非常ノ費用ハ（豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用豫算費ヲ以テ給足セサルモノヲ云フ）別ニ賦課スルヲ得ルトヽ雖モ其府縣會ノ議決ヲ取リ内務卿及ヒ大藏卿ニ報告スヘシ（其急施ヲ要スル云々以下ハ明治十四年二月十四日第五號布告ヲ以テ削除ス）

前年度經費決算ノ場合ニ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取リ其補

充費ヲ徵收スルコヲ得

第六條　地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜之ヲ定ムヘシ

第七條（明治十四年二月十四日第五號布告ヲ以テ左ノ通リ改正ス）府知事縣令ハ一週年度間ノ出納ヲ計算シ精算帳及ヒ計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後內務卿及ヒ大藏卿ニ報告スヘシ

第八條（明治十四年二月十四日第五號布告ヲ以テ刪除ス故ニ略ス）

第九條　島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之レヲ分別スルコヲ得

▲明治十三年十一月五日第四拾八號布告中第三條左ノ如シ

第三條　府縣土木（卽河港道路堤防橋梁建築修繕）費中官費下渡金ハ來ル十四年度ヨリ廢止ス

▲明治十三年四月八日第拾七號布告

明治十一年十二月第三拾九號地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條　營業稅目左ノ如シ其制限金拾五圓以內トス但國稅アルヲ除ク

會社
御賣商
仲買商
小賣商
雜商

第二條　雜種稅ハ其種類ニ依リ各個ニ稅額ヲ定ム其目左ノ如シ

製造所職工一ヶ年金拾五圓以上（圓點ヲ施ス二字ハ明治十四年二月十四日第九號布

告ヲ以テ追加ス）

船（明治七年第二十一號布告船漁艀云々ノ分）車（馬車人力車荷積馬車荷積大七大八車荷積中小車荷積牛車ノ類）國稅ノ半額以內

市場演劇場其他興行遊覽所上リ高百分五以內

遊枝場（玉突大弓揚弓射的吹矢ノ類）壹ヶ年金貳拾圓以內

料理屋（西洋料理屋共）待合茶屋遊船宿芝居茶屋八寄席壹ヶ年金拾貳圓以內

質屋兩替屋（爲換店共）陸運又ハ廻漕ヲ以テ業トスル者壹ヶ年金拾五圓以內

古着古金古道具類（書畫骨董店共）商旅籠屋諸飲食店（鮑屋鮮屋蕎麥屋ノ類）壹ヶ年金拾圓以內

湯屋理髮床雇人請宿壹ヶ年金五圓以內

遊藝師匠遊藝稼人相撲壹ヶ年金拾貳圓以內

俳優壹ヶ年金六拾圓以內

射間藝妓壹ヶ年金四拾貳圓以內

水車壹ヶ年金拾圓以內

乘馬（自用渡世共）壹ヶ年壹頭ニ付金壹圓以內

屠畜壹頭ニ付金五拾錢以內

第三條　漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其例規ヲ改正シ又ハ新法ヲ創設セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條　府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ得

第五條　府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ稅額制限内ニ於テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ

第六條　凡ソ稅額ハ一ケ年ヲ以テ其制限ヲ定ムト雖モ各地ノ便宜ニ依リ年額ニ準據シ日稅月稅ニシテ之レヲ徵收スルコトヲ得

第七條　凡ソ上リ高ヲ以テ稅額ヲ定ムルモノハ各地ノ便宜ニ依リ上リ高見積リヲ以テ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第八條　第四條第五條ニ於テ確定シタル課額ハ府知事縣令ヨリ内務大藏両卿ニ報告スヘシ

第九條　第一條第二條第三條稅目ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏両卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第一節　全改正追加

○明治十七年五月七日太政官第十三號布告

明治十三年（四月）第十六號布告地方税則第三條第十五項左ノ通改正シ十七年度ヨリ施行ス

一戸長以下給料旅費

右奉勅　旨布告候事

○明治十七年五月七日内務省乙第二十號達

府縣函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ヲ除ク

本年第十三號布告ヲ以テ地方税規則第三條第十五項改正相成候ニ付テハ戸長役場諸費ハ總テ區町村費ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

第六十章　請願規則

○明治十五年十二月十二日第五十八號布告

第一條　人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルヘシ

第二條　郡區長及戸長職務內ノ事件ハ郡區長戸長ノ指令ニ服セサルモノハ府知事縣令ノ指令ニ服セサルモノハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサルモノハ太政官ニ請願スルコトヲ得

府知事縣令警視總監職務內ノ事件ハ府知事縣令警視總監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願スヘシ府知事縣令警視總監ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

各省卿職務內ノ事件ハ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

第三條　凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス官署ノ求ニ應シテ開陳スルハ此限ニ在ラス

第四條　請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其連名ヲ以テ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ奥印ヲ受ルハ前ノ例ニ同シ

第五條　府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス但成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニ在ラス

第六條　請願書ヲ上呈スルコトハ代人ヲ以テスルコトヲ許サス數人連名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ選ニ之ニ委托スヘシ

第七條　請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

第八條　上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添フヘシ

第九條　請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直ニ之ヲ主務者ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

第十條　太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セシムヘシ

第十一條　太政官ノ裁介ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス

又裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第十二條　請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス

第十四條　行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス

第十五條　請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條第八條第十一條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス

第十六條　請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス

第十七條　條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請フ者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外敎唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス其嘯聚ニ渉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十八條　請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ渉ル者十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其侮辱ニ渉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十九條　請願者ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サス犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ

第二十條　請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第六十一章　富籤賣買ノ牙保幷ニ富籤ヲ購買スル者處分方

○明治十五年五月廿四日第貳拾五號布告

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幷ニ富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條　凡ソ富籤賣買ノ牙保若クハ幇助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條　凡ソ富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及ヒ他人ニ讓リ受ケタル者亦同シ

第三條　第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑

期金額ノ二倍ニ處ス但シ初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條　富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條　富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免セス

第六條　富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

傳染病豫防規則

第六十二章　傳染病豫防規則

○明治十三年七月九日第三十四號布告

總則

第一條　此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列剌腦窒扶私赤痢實布垤利亞發疹窒扶私及瘡瘡ノ六病ヲ云フ

但シ六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルトキハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條　醫師ノ傳染病ヲ診斷スルヤ其患者所在ノ町村衞生委員ニ通知スルヲ要ス衞生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳東京府下ハ府廳及ヒ警視本署ニ屆出ッヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直チニ警察署ニ屆出警察署ヨリ衞生委員ニ通知スルモ妨ケナシ

▲明治十三年十二月十四日第五十四號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ增加ス

地方廳ハ一週間每ニ新舊患者及ヒ治癒死亡ノ數ヲ內務省ニ申報スヘシ

第三條　地方長官ハ管內ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ其性狀ヲ記シテ速カニ之ヲ內務省ニ申報シ且ツ其管內及ヒ隣接若シハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其地碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

但（明治十三年十二月十四日第五百四號布告ヲ以テ但書ヲ削除ス故ニ略ス）

第四條（明治十三年十二月十四日第五十四號布告ヲ以テ削除ス故ニ略ス）

第五條　諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校病院製作所等ニ於テ傳染病者アルトキハ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條　虎列剌、赤痢、痘瘡、癘瘧ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルトキハ內務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヲ可シ

第七條　醫師並ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行屆カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシム可シ

第八條　掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戶ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絕タシムヘシ

但シ患者治癒死亡又ハ避病院ニ入リタル後チ相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

▲明治十五年八月廿六日第四十七號布告

明治十三年（七月）第三十四號布告傳染病豫防規則第八條中病名票貼付ノ儀當分之ヲ施行セス

虎列剌病

第九條　虎列剌病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシム可シ

第十條　虎列剌病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ埋葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其埋骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條　虎列剌病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條　虎列剌流行ノ際ニハ井泉河流水道及ヒ厠圈芥溜下水溝渠等總テ病毒前生ノ因ト成ルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條　虎列剌流行スル時ハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ檢査シ患者若クハ死者アル時ハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條　虎列剌流行ノ勢猛劇ナル時ハ地方長官ハ內務卿ニ具狀シテ其許可ヲ得テ醫師衞生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員ト爲シ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得

▲明治十五年九月一日第四十八號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備スル病ヲ診斷スルトキハ總テ檢疫委員ニ届出ツヘシ但シ本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管內ニ告示シ內務省ニ申報スヘシ

第十五條　前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群

集ヲ差止ルコトヲ得

▲明治十四年十月七日第五十八號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス

虎列剌已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサヽルヤウ地方官ヨリ內務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得

但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸室扶私病

第十六條　腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條　赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布垤里亞病

第十八條　實布垤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹窒扶私病

第十九條（明治十三年十二月十四日第五十四號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス）發疹窒扶私病者アルトキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

第二十條　發疹窒扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ每回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條（明治十五年九月一日第四十八號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス）痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及ヒ第二十條ヲ

適用シ患者ニ未痊者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ

罰則

第二十二條　醫師衞生委員此ノ規則ニ違背シタルトキハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條　官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルトキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條　人民此規則ニ違背シタルトキハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

第六十三章　行旅死亡人取扱規則

○明治十五年九月三十日第四十九號布告

第一條　凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルトキハ所在戸長ハ之ヲ最寄墓地ヘ假埋葬スヘシ

其死倒變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條　死亡人ノ本籍氏名詳ナルトキ戸長ハ死亡ノ狀況幷ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ノ計算書ヲ本籍戸長ヘ通報スヘシ

本籍戸長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルトキハ三十日限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルトキハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條　死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルトキ戸長ハ其相貌景狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄揭示場ヘ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日

行旅死亡人取扱規則

ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルトキハ該費用ハ地方税ヲ以テ支辨スヘシ

第四條　死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルトキハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ

但シ本籍氏名詳ナル者其家亦貧ニシテ費用ヲ辨償スルヿ能ハサルトキハ直ニ其物品ヲ公賣スルモ妨ケナシ

第五條　死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルトキハ之ヲ本籍ヘ送付スヘシ其本籍氏名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テハ地方税雜収入ニ組入ルヘシ

遺失物取扱規則

第六十六章　遺失物取扱規則

○明治九年四月十九日第五十六號布告

第一條　凡ソ遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヿヲ覺テス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨ミ物主既場ニ就テ主タルヿヲ証明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以ヲ論スルヿヲ得ス

第二條　凡ソ遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之レヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年内其主ナキトキハ之ヲ得者ニ給ス

第三條　凡ソ遺失者ハ其遺失スル物品ノ摸様員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈詳細ニ記誦シ速カニ官ニ届出ヘシ

但シ得者ヨリ其返還ヲ得ルヿモ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條　凡ソ遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ

償ハシムルヿヲ得且ツ得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價額ヲ爭フトキハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條　凡ソ遺失物ヲ得ルニ物品盜賍ニ係ルモノハ直チニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止ニ其費用ノミヲ償ハシム

第六條　官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ堀得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ帰スヘシ若シ借地人其借地ヨリ堀得タルトキハ之ヲ地主ト中分セシム但シ盜賍ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

第七條　凡ソ遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラルトキハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シテ其代價ヲ領證シ榜示シテ處分スルヿ第二條ノ如シ

第八條　凡ソ家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヿ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スルトキハ律ニ照ラシ處分ス

第九條　凡ソ逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサルハ之レヲ官ニ送ルヘシ若シ八日内其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剰餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヿ第二條ノ如シ

第十條　凡ソ遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヿ私物ニ異ナルヿナシ

第十一條　凡ソ警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速カニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之レヲ官ニ沒ス

第十二條　凡ソ一切庶禁ノ物ヲ得レハ遺失又ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス

第十三條　凡ソ公私債証書典券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條　凡ソ遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ仝ク送還セス或ハ物主ノ其主タルコヲ証明スルニ曾認シテ返還セサル者ハ幷ニ律ニ照ラシテ處分ス

▲明治十年九月廿七日内務省甲第二十號布達

明治九年（四月）太政官第五十六號ヲ以テ遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ儀及布相成候處有物品ノ中ヲ古代ノ沿革ヲ徴スルモノヲ有之候ニ付處分前一應當省ヘ届出檢査ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人ヘ下付シ該物品ハ永ク博物館ヘ陳列可致候條此旨布達候事

但シ物品ハ先ツ掘出地各及ヒ形狀等ヲ詳記シ及ヒ摸寫スルモノヲ郵送シ其見込ミアルモノニテ搬送方相ヒ達候後ヲ本文ノ通リ可計取候事

第六十五章　監獄則

明治十四年九月九日第八拾一號達

監獄則

監獄則目錄

第一編
第一章　汎則
第二章　監署ノ規程
第三章　監獄ノ構造
第二編
第一章　役法　附時限
第二章　工錢
第三章　徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受クル囚徒押送
第四章　假出獄免囚閉ノ者ニ貸與スル屋舍
第三編
第一章　給與
第二章　疾病　附死亡
第三章　書信
第四章　接見
第五章　差入品
第四編

第一章　教誨
第二章　賞譽
第三章　懲罰

監獄則

第一編

第一章　汎則

第一條　監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一　留置場　裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者ヲ一時留置スルノ所トス但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得

二　監倉未決者ヲ拘禁スルノ所トス

三　懲治場懲治人ヲ懲治スルノ所トス

四　拘留場拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スル所トス

五　懲役場　懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス

六　集治監　徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

第二條　監獄ハ內務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

第三條　集治監ハ內務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場ハ警視總監又ハ府知事東京府ハ縣令之ヲ管理ス

第四條　此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス

第五條　內務卿ハ每年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ
裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱スヘシ
府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルコトヲ得

第六條　在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ

第七條　在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ苦情ヲ訴ヘントスルトキハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第二章　監署ノ規程

第八條　司獄監吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照シテ犯則者ヲ決責スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス

第九條　監獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ內外ヲ視察シ或ハ物件ヲ查閱シ其他囚徒ノ傲惰ヲ生シ脫越等ノ事ナカラシムルヲ要ス

第十條　新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀又ハ所刑宣告書等ノ文書ヲ查閱シテ之ヲ領シ其領收ノ証ヲ引致シ來タル者ニ交付スル其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得ス

未決者ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法庭ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス

已決囚ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十一條　入監ノ婦女乳兒三歲未滿ヲ携帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第十二條　新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ樣本ニ照シ其要項ヲ詳錄シ一小房內ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ次帶スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舍ニ入ルトキモ亦同シ

第十三條　總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄一々之ヲ精驗シテ危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁ス〳〵シ

第十四條　總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ其點檢ノ際匿セシ貨物ハ沒收ス

若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フトキハ之ヲ許ス

第十五條　在監人書籍ヲ看ント請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業ニ必要ナルモノハ之ヲ許スヘシ

第十六條　已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異ス

一　十六歲未滿ノ者ト滿十六歲以上ノ者

二　滿十六歲以上二十歲未滿ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齡ニシテ初犯ノ者

三　初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條　要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ但着衣ノ外襟ニ白布ヲ縫着シ其番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿チ其ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム

第十八條　放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スヘシ

矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齡ハ滿八歲以上二十歲以下ヲ限トス

第十九條　懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一　刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘖瘂者

二　尊屬親ノ情願ニ由ヲ懲治人ハ戸長ノ證票ヲ具スルニ非レハ入場ヲ許サス但シ在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過ルヲ得ス

第二十條　前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ戸長ノ證票ヲ具ス入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舍ニ帶往セント請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二十一條　懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其居房ヲ別異スヘシ

一　十六歳未滿ノ者ト十六歳以上ノ者

二　滿十六歳以上二十歳未滿ニシテ再ヒ懲治場ニ入シ者ト同上ノ年齡ニシテ初テ入場スル者

第二十二條　在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其發遣ノ途中ニ在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ

在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒ男ト女ヲ別ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條　典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ錄サシメ賞罰ヲ行フノ考據トナスヘシ

第二十四條　賞表ヲ與ヘタルトキハ賞譽簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ視察シタルトキハ之ヲ刪除スヘシ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條　特赦アリタルトキハ速ニ其旨ヲ內務卿ヘ申報スヘシ

第二十六條　特赦ヲ受タル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ掲示スヘシ

第二十七條　假出獄ヲ許サレタル者ニハ其証票ヲ與ヘ警察遞傳ヲ以テ其居住セントスル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ錄メ其ニ其地ノ警察官治罪法第六十條第二項ニ記載シタル官吏ニ送致スヘシ

第二十八條　假出獄免圖閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルトキハ召喚スルコトヲ得

第二十九條　在監人中館ク獄則ヲ守ル者ヲ撰ヒ傳告者誘工者トナス傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六個月以上其刑務

ヲ繼續セシムルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス

第三十條　刑期滿限ノ後賴ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルコトヲ得

第三十一條　刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ヘカラス

第三十二條　死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ殿ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時ヲ過サレハ埋葬若クハ下付スルコトヲ得ス

第三十三條　死刑者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ其

監署ニ領置シタル貨物ハ親属ニ下付ス若シ細属ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス

親属遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ遞付スルコトヲ得但送費ハ親属ノ自辨トス」

若シ其物件又ハ代價ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ收收ス

第三十四條　在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ處分スヘシ但沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照シテ處分スヘシ

第三十五條　監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ慮アルトキハ司獄官吏其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムヘシ

水火風震其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ遑ナキ

ヰハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヲ得

第三章　監獄ノ構造

第三十六條　留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ集治監ハ適當ノ地ニ之ヲ置クモノトス

留置場監倉場懲治拘留場懲役場一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第三十七條　未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴劃スヘシ

甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交遞スルノ便ヲ得サラシムヘシ各監房ノ鑰匙（カギ）ハ其製式ヲ同クシ甲乙適用スルヲ要ス

第三十八條　密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシムヘシ

閙室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セシメサルヲ要ス

密室閙室ハ一室一人ヲ限トス

第三十九條　接見室ハ監舍ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ之ニ縱橫ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ格子內ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムヘシ但懲治人ノ接見室ハ此例ヲ用ヒス

第四十條　燈火ハ監房外ニ置キ障碍スルノ處ナカラシムヘシ

第四十一條　死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第二編

第一章　役法　附時限

第四十二條　定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ酌斟シ每

囚一日ノ科程ヲ定メテ服役セシム滿十二歲以上十六歲未滿ノ者滿六十歲以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞若クハ身體ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル者ハ體力ニ應シ作業ノ科程ヲ寬恕ス

若シ已ムヲ得ス外役ニ服セシムルトキハ鎖鎖ヲ用テ二囚每ニ聯絆シ笠ヲ用テ晴雨ヲ其面ヲ掩ハシム但外行ノ囚徒ハ一組十人以上十五人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム

外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサラシムルヲ要ス

第四十三條　每日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ惡ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及ヒ看守點檢ヲナスヘシ歸監セシムル時モ亦同シ

第四十四條　左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス父母ノ喪ニ遭フ者

モ亦一日免役ス

一月一日　元始祭　紀元節

神武天皇祭　神嘗祭　新嘗祭

第四十五條　囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業妹等ノ囚徒ヲシテ之ヲ導カシム其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ルヲ要ス

第四十六條　定役ニ服セサル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ生業ヲ計リ攝生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セシト請フニ至ラシムルヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル

一月二日　孝明天皇祭

春季皇靈祭　秋季皇靈祭

天長節

十二月三十一日

決決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サシト請フトキモ亦同シ

第四十七條　懲治人ニハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過キサル時間休憩時間ヲ除キ農業若クハ工塾ヲ教ヘ力作セシムヘシ

△時附

第四十八條　未決者及ヒ定役ニ服セサル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム又毎日一時間以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第四十九條　定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢テ喫飯セシム其起床ヨリ約テ一時間ヲ役ニ就カシメ午前一時前後ニ至テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス飯後暫時休憩シ再ヒ就役日沒前罷役セシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得

起床還房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以

テシ仝監一齊ニ動止セシム

第五十條　科程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラス罷役セシム午飯ニ就カシムルノ際科程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視スヘシ若シ偷懶ニシテ怠役スル者ハ飯後ノ休憩ヲ許サス

第二章　工役

第五十一條　定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ科定シ之ヲ十分シ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム

定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決監ニ在ル者並ニ第十九條第一款ニ記載シタル懲治人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ日當ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢モ又同シ

第五十二條　第十九條第二款ニ記載シタル懲治人ニシテ其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辦スル者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辦スルニ能ハサル者及ヒ第三十條ニ記載シタル者ハ工錢ノ內ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條　在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ每月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第五十四條　各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應シ一日若干ト定ムヘシ

第五十五條　監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ第六十九條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得

第五十六條　在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ第三十三條ノ例ニ照ラシテ處分スヘシ

第五十七條　在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒

收ス未決者及懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬無レハ之ヲ沒收ス

第三章　徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒押送

第五十八條　徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ其宣告書ノ謄書ヲ具シテ內務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察遞傳ヲ以テ集治監ニ押送スヘシ

北海道集治監ニ於テ管束スヘキ徒刑流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地マテ押送スヘキモノトス

第五十九條　北海道ニ在ル集治監ハ每歲三四次官吏ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押送シタル徒刑流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ

第六十條　徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツヘシ遞船中ニ在テハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ナシ

第四章　假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舍

第六十一條　假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其地ニ居住スヘキ家ナキトキハ屋舍ヲ貸與スヘシ

屋舍ヲ構造スルハ將來市街村落ヲ創置スルノ便ヲ計畫スルヲ要ス

第六十二條　假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ取糺シ之ヲ許否スヘシ

前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ戶長ニ通告スヘシ

其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ申告セシメ典獄之ヲ許否スヘシ

第三編

第一章　給與

第六十三條　已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條　未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スル能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第六十五條　已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

第六十六條　獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番號ヲ墨書スヘシ

第六十七條　在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

一單衣
一給

一綿入衣
一襦袢

就役服

一單短衣
一袷短衣
一綿入短衣
一襦袢
一股引

雜具

一蒲團
一蚊厨
一莞莚（ゴザ）
一枕

一帶長三尺
一褌長三尺
一手巾
一襦
一笠

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ揭酌取捨シ潛濯補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第六十八條　在監人一人一日ノ食糧

一下白米十分ノ四　七合
一挽割麥十分ノ六　五合
一同　四合
一同　三合

強キ力業ニ服スル者
輕キ力業ニ服スル者
工役ニ服セサル者及ヒ滿十歲以上ノ未決者
十歲未滿ノ幼者

一菜　金壹錢五厘以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルヲ得

第六十九條　工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ工錢ヲ得ル者及ヒ其幾倍ヲ得ル者等ニハ其請ニ由リ頒與シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金三錢ヲ過ルコトヲ得ス

定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ頒與シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金五錢ヲ過ルコトヲ得ス

第七十條　在監人日用ノ雜費潛濯補綴及ハ炊用ノ薪炭其他一身ニ係ル日常諸費ハ一人一日金壹錢貳厘以下トス

第七十一條　監房常置ノ器具

一貯水器幷ニ飲器　木製
一唾壺　同
一便器　木製大小二種但監房ニ厠圊ノ接續スルモノニハ此器ヲ用ヒス

一小箒　草ノ種類ヲ以テ製作セシ軟カナルモノ
一洗手盆　木製

第七十二條　浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

第七十三條　已決囚及ヒ懲治人ノ髪ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚アル者ハ常ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス
婦女ノ梳髪ハ膏ヲ用ヒテ髪飾スルヲ許サス

第七十四條　衣類雑具其他ノ物品ハ種類ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ滑ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第二章　疾病附死亡

第七十五條　在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若ク
ハ病室ニ於テ醫療セシム

懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條　病者ノ攝養ニ効アル飲食又ハ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考撿シテ許否スヘシ

第七十七條　傳染病侵襲ノ兆アルトキハ其消毒豫防ヲ愼密ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告スヘシ

△死亡

第七十八條　在監人死亡スレハ典獄看守長醫師幷莅テ之ヲ驗屍スヘシ

未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十九條　死者ノ親屬若クハ故舊第三十三條ニ記載シタル時

限ヨリ二拾四時以内ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ許シ其者ヲシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシムヘシ

遺骸ヲ請フ親属故舊ナキトキハ棺ニ入テ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標ハ約子面三寸長三尺五寸トス

第三章　書信

第八拾條　已決囚其親属故舊ニ書信ヲ贈ルハ六個月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親属故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナク且必用ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第八拾壹條　未決者ニ係ル書信ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス

第八拾貳條　懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親属故舊ニ贈ル書信ハ一個月一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス

第八拾三條　在監人ノ發スル書信ハ典獄之ヲ檢閲スヘシ若シ書中忌諱ニ渉ル等ノ文意アルトキハ通信ヲ許サス

第八拾四條　外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル書信ハ典獄之ヲ檢閲シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ還善ノ論示ヲ主トシタルモノニ限リ之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ルモノト認ルトキハ之ヲ付與セス

第八拾五條　書信ヲ檢閲スルハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ横讀シ嫌疑ノ文章アリヤ否ヲ詳査スヘシ

第八十六條　在監人ヨリ發スル書信ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ繳シ封皮ニ其受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄署ト記シ之ヲ郵送ス但郵便稅ハ自辨セシム

親属故舊若クハ辯護人ノ書信ハ監獄署ニ宛之ヲ差出サシムヘシ

第四章　接見

第八十七條　在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏名族籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ已ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フヘキ=ナキトキハ之ヲ許シ看守長看守並在テ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス

第八十八條　死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會時間ハ五十分時ヲ過ルヲ得ス

第五章　差入品

第八十九條　未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙表服臥具又飲食物炊烹ヲ要セサルモノニシテ贈ラントス請フトキハ之ヲ許ス但酒又ハ煙草其他攝生ニ害アルモノハ此限ニ在ラス

第九十條　已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サス

第九十一條　假出獄免囚幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服夜具等ノ寄贈ヲ受タルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四編

第一章　敎誨

第九十二條　已決囚及ヒ懲治人敎誨ノ爲メ敎誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第九十三條　敎誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講席ヲ開クモノトス

第九十四條　懲治人ニハ每日三四時間讀書習字算術庶品圖畫等

ノ科目中ニ就キ之ヲ教フヘキモノトス

學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等ヲ簿册ニ記載シ巡閲官吏ノ檢閲ニ供シ又ハ其管屬親ニ示スコトアルヘシ

第九十五條　各監房内ニ左ノ諸款ヲ掲示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ諳ミ聞カスヘシ

掲示

一在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スヘシ

一平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ愼テ容止ヲ正フスヘシ　未決監ニハ此款ヲ除ク

一毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スヘシ

一毎朝常用ノ諸器具精潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁間廁等ヲ掃除スヘシ

一窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ヘ唾キ貯水ヲ濫用スルヲ禁ス

一監外ニ出タル時其途上ニ於テ企往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス

一夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起歩スルヲ禁ス但晝間ト雖モ放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス

一許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似ノ惡戲ヲナシ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被シメ猥褻ニ渉ル擧動ヲ爲スノ所爲アルヲ禁ス

一服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス　未決監ニハ此款ヲ除ク

一許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス

一監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一日沒後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フヘキモノトス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ響器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ

一病者アルトキハ同房ノ者其ニ介保ニ力ヲ致スヘキハ勿論其看病人タラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病スヘシ

一水火風震等ノ際解放ニ遇フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ擧ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分スヘキモノナリ

年月日

某監獄署

第二章　賞罰

第九十六條　已決囚獄則ヲ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞擧スヘシ

第九十七條　賞擧セシ者ニハ賞擧セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ袖ノ肩臂間ノ表面ニ方二寸曲尺ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシ

第九十八條　賞表ハ假出獄免圖閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得

第九十九條　賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第百條　已決囚若ノ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ

係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與シ其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ食物ヲ購求スヘシ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第百一條　未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ錄シテ撿察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第百二條　懲治人第百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

第三章　懲罰

第百三條　已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一　絕信　新屬故舊ト書信接見ヲ絕ス

二　屏禁　晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絕シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三　減食　常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四　闇室　闇室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

第百四條　絕信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食闇室ハ七晝夜ヲ限トス

減食闇室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキトキハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルヿヲ得

第百五條　懲治人及ヒ十六歲未滿ノ已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ右ノ例ニ從テ處罰ス

一　獨愼　晝夜一室ニ獨居セシム

二　減食　常食ノ半以內ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

第百六條　獨愼ハ七晝夜以內減食ハ三日以內トス

第百七條　未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者教令ニ順ハス或ハ同
輩ノ者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規則ヲ犯ストキハ所犯ノ輕重ヲ量
リ第百三條第百五條ニ準擬シ減食スルコトヲ得

第百八條　賞表ヲ有スル者處罰ヲ受タルトキハ賞表一個又ハ數
個ヲ褫奪ス

第百九條　無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ
暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ三月以上五年
以下兩脚又ハ一脚ニ鉄丸ヲ施シ仍ホ鉄丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鉄
ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵ス但獨房ニ在ルモ晝
間ハ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ
照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上二貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ
之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス其外役ニ服ス
ルトキハ鐵丸ヲ繚キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第百拾條　滅食或ハ閉室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシ
テ診視セシメ身體ニ妨ナキトキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ

第百拾一條　屏禁滅食閉室又ハ獨愼ノ罰ニ處シタル後ハ典獄若
クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ狀況ニ由リ醫師及ヒ教誨師ヲ
シテ之ヲ問ハシムルコトアルヘシ

第百十二條　罰則ニ處セラレタル者改悛ノ狀著ルヽトキハ之ヲ
免スルコトヲ得

第百十三條　假出獄免閉閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者監署ノ命令ニ
違背シタルトキハ七日以下之ヲ拘置スルコトヲ得

〔典獄（捺印）〕　懲治人名籍

〔横線以下朱書

主捺

書記（氏名印）

本管 出生地 族籍 氏名 年齢	國郡(町村)番地住何某(男弟女妹) 何國郡(町村)産 族籍 何某 某年月日生 當年何月何年何ヶ月
懲治人及ヒ尊屬親ノ營業	懲治人ノ營業 主願者タル尊屬親ノ營業
親屬	父母兄弟及ヒ配偶者等ノ有無
入場ノ年月日	明治何年月日午(前後)第何時入場
入場ノ事狀	
身材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
容貌音聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態 其他痘斑(アバタ)、瘢子(イボ)、癭瘤(コブ)、黑痣(ホクロ)、癜風(ナマヅ)、天黥(アザ)、創瘢(キヅアト)ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス

教育及ヒ宗門	入場ノ時文字ヲ知ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 入場後進學ノ景況 何宗或ハ宗門不詳
入場中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信贈答ノ月日	何年月日何國郡(町村)住親屬若クハ朋友ニ書信(發來)
懲治場ニ留置ノ宣告ヲナセシ裁判所	明治何年何月何日某裁判所ニ於テ若干年月日留置ノ宣告
曩ニ處斷ヲ經シ者ナル時ハ其事由	犯由ノ大略及ヒ某裁判所
事變	明治何年何月日病死或ハ變死或ハ逃走或ハ他監ニ移ス
放還	明治何年月日某家ニ放還

〔典獄(撿印)〕 未決者名籍 主撿 書記(氏名印)

〔横線以下朱書

本管	某管下國郡(町村)番地住又ハ何某子弟妻女
出生地	何國郡(町村)産 族籍 何某
族籍	某年月日生
氏名	當何年月何年何ヶ月
年齢	
營業及ヒ親屬	營業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無
乳兒提携	男或ハ女 收監ノ時何歳何ヶ月
入監ノ年月日	明治何年月日午(前後)第何時入監
時及ヒ罪件	何罪ヲ犯ス
身材	長何尺何寸何分肥瘠强弱
容貌音聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態 其他痘斑(アバタ)癧子(イボコブ)瘻瘤(ホクロ)黑痣(ナマヅ)癜風(アザ)天鯨(ホヅアト)創瘢ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス

教育及ヒ宗門	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
入監中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信ノ贈答ヲ許ス月日	明治何年月日何國郡(町村)住親屬若クハ朋友ニ書信(發來)
當該官ノ氏名	裁判長ノ氏名死刑ハ裁判長ノ外其行刑ヲ臨監セシ官吏ノ氏名
保釋	明治何年月日保釋若クハ責付
責付	
事變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脫監
終結	明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行 又ハ他監押送

〔典獄(撿印)〕 已決囚名籍 主撿 書記〔氏名印〕

〔横線以下朱書

本管出生地族籍氏名年齢	某管下國郡(町村)番地住又ハ何某子弟妻女 何國郡(町村)産　族籍　何某 某年月日生 當何年何月何年何ヶ月
營業及ヒ親屬	營業ヲ詳記スヘシ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無
乳兒提携	男若クハ女 收監ノ時何歳何ヶ月 父母ニ先チテ出監シ或ハ死去シタルトキハ之ヲ詳記ス
刑名及ヒ宣告ノ月日裁判所ノ名稱	何刑若干年月日 明治何年月日何裁判所ニ於テ宣告
收監ノ年月日	明治何年月日午(前後)第何時入監
犯由ノ大略及ヒ犯數	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大略ヲ記ス若シ再三犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ某裁判所ニ於テ何刑ニ處セラル

身材	長何尺何寸何分肥瘠强弱
容貌音聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態 其他痘斑(アバタ)、瘰癧(イボ)、黑痣(ニブ)、癜風(ホクロ)、天鯨(ナマヅ)、創瘢(アザ)ノ類及ヒ音聲ノ高低(キヒ)ヲモ細緻ニ具載ス
教育及ヒ宗門	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
入監中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信贈答ノ年月日	明治何年月日何國郡(町村)住親屬若クハ朋友ニ書信(發來)
假出獄免幽閉	明治何年何月何日假出獄或免幽閉
事變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脫監或ハ何罪ヲ犯シ復タ未決監ニ入ル

終結　明治何年月日滿期放免又ハ特赦

假出獄ノ證票

某管下國郡町村番地住又ハ何某子弟妻女

族籍

何某

某年月日生

明治何年何月何年何ケ月

身材

名籍ノ標本ニ倣ヒ詳記スヘシ

容貌

上ニ仝シ

罪質犯數

刑名刑期

及ヒ附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受ケ何年何月ヨリ執行何年月日滿期

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ヘ約ヲ何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上住宅ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事

一此者ハ本刑期限間特別監視ニ付セラレタル事

一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルトキハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル事

一此者預病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滯留スルトキハ滯留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住地ニ到着ノ上此證書ト共ニ居住地ノ警察官ニ差出スヘキ旨申渡シタル事

右之通心得サセ假出獄ノ證票ヲ與フル者也

明治何年 月 日

署印

某監獄署

長官何某 印

▲假出獄ヲ受タル者所有金アルトキハ此證書ノ裏面若クハ欄内ニ左ノ二款ヲ附記スヘシ

一此者ノ所有金ハ當監署ヨリ其居住スヘキ地ノ警察官ニ送リ遣シタル事

一警察官ヘ送リ遣シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ後何日ニテモ受取得ヘキト雖モ同官ニ於テ正當ノ入用ナリト認定ノ上ニ非レハ一次ニ之ヲ渡サヽルヘキ事

料紙半紙

一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫スヘシ

一書信ノ文句規則ニ背キタルトキハ其送致ヲ止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルコトアルヘシ

〔括弧内朱書〕

（何管下某）監獄署○在監人ヨリ信書紙○明治年月日

囚徒服役時限表

月名／時限	起床	就役	小憩	午飯	罷役	晩飯	還房	服役時間合計
一月	午前七時〇二分	午前八時〇二分	午前第十時ヨリ十分時間	正午十二時ヨリ五十分時間	午後三時三十分	一時二十八分間	午後四時五十八分	六時二十七分間
二月	六時三十八分	七時三十八分	第十時ヨリ十分時間	十二時ヨリ一時間	三時五十分	二時三十二分間	五時二十二分	六時五十七分間
三月	六時〇六分	七時〇六分	同上	同上	四時	一時五十四分間	五時五十四分	七時五十三分間

四月	五月	六月	七月	八月
五時三十二分	五時〇一分	四時十九分	四時十分	五時六分
六時三十二分	六時〇一分	五時四十五分	五時十一分	六時十六分
第九時四十分ヨリ二十分時間	第九時十二分ヨリ三十分時間	同上	同上	同上
同上	同上	十二時ヨリ二時間	同上	同上
四時三十分	五時	五時二十分	五時十分	四時五十分
一時五十八分	一時五十八分	一時五十四分	一時十九分	一時十四分
六時二十八分	六時五分	七時四分	七時〇九分	六時十四分
八時三十八分間	八時五十九分間	九時十五分間	八時四十九分間	八時〇四分間

九月	十月	十一月	十二月	
五時四十八分	六時二十二分	六時十一分	七時八分	約ス日出ノ時刻ヲ以テ
六時四十八分	七時二十二分	七時十二分	八時〇八分	
第九時十分ヨリ二十分時間	第十時五分ヨリ二十分時間	同上	第十時十分ヨリ十分時間	
十二時ヨリ一時間	同上	同上	十二時ヨリ五分時間	
四時二十分	三時四十分	三時二十分	同上	
一時五十一分	一時四十九分	一時十八分	一時三十二分	右ノ時間ニシテ工器ヲ
六時十二分	五時三十七分	五時〇三分	四時五十二分	約ス日没ノ時刻ヲ以テ
八時十二分間	七時〇三分間	六時十三分間	六時十二分間	

テ起床ノ時刻トナス然ルニ年々季節ニ早晩アリ日々分秒ニ差刻アリ加ルニ東國西國ノ別アリ此ニ由テ何レノ地方ニ於テモ分秒ノ差異ナ

ヲ併理シ及ヒ餐浴等ヲ爲サシム

テ入監ノ時刻トナス

キヲ保ツ能ハス故ニ月毎ニ大約之ヲ平均シテ姑ク其起床時刻ヲ登載ス各地ノ司獄官此表ノ區分ヲ準ト ナシ宜ク裁酌シテ役囚ヲ適スヘシ

第六十六章　裁判所ノ召喚ニ對シ遲不參スル者處分方

○明治十年一月十七日第五號布告

凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタルモノ疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不參スルトキハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限マテニ其裁判所ニ届出ヘシ若シ右刻限ヲ過キテ届出ルカ又ハ無届ニテ遲參不參スルトキハ裁判官ニ於テ直ニ五錢以上拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ右布告候事

第六十七章　法律規則中罰例ニ係ルモノ處分方

○明治十四年十二月二十八日第七十二號布告

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付キ法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條　凡ソ懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條　凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條　凡ソ罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條　法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷スト云アリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ貳圓以上ノ罰金ニ處ス

第五條　法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱